

令和3年度第2回恵那市総合教育会議議事録

日 時 令和4年2月21日(月) 午後2時20分～午後3時30分

場 所 上矢作振興事務所 会議室

会議次第 1. 市長、教育長あいさつ

2. 議題

(1) ICTを活用した授業や今後のICT教育について

(2) 意見交換会

(3) その他

出席構成員：恵那市長

(6名)

教育長

教育委員

小坂 喬峰

大畑 雅幸

西尾 修欣

後藤 伸子

樋田 千史

村松 訓子

事務局：

副教育長

教育委員会事務局長

教育委員会事務局次長

教育総務課長

学校教育課長

教育研究所長

教育総務課係長(記録)

西尾 朋子

長谷川 幸洋

鷹見 健司

佐々木 和美

丸山 頼彦

加藤 美香

原 久晃

開 会(午後2時20分)

教育総務課長

お時間になりましたので、これより総合教育会議を始めさせていただきたいと
思います。

本日、司会進行をします教育総務課の佐々木です。よろしくお願いいたします。

本日の総合教育会議は、設置要綱第5条に基づきまして会議を公開し、第6条に
基づきまして議事録を公表しますので、よろしくお願いいたします。

1 市長、教育長あいさつ

市長 こんにちは。本日は、こうして上矢作振興事務所の場所を借りて総合教育会議
等の開催となりました。どうぞよろしくお願いいたします。

先ほどは上矢作中学校に皆様、足をお運びいただきまして遠隔の授業、これは

初めての取組だと思いますが、御覧いただきました。私自身も初めて見せていただきましたけれど、ある意味、大変可能性があると思いました。ぜひここは皆様方から率直なご意見をいただき直すべきところは直し、改善するところは改善するよう、皆様からご意見をいただけたらと思っております。

実は今日、午前中に定例記者会見がございまして、令和4年度の予算の概要について記者の方々に報告させていただきました。

その中で私から申し上げたのは、特にこの数年に渡りますコロナを見据え、その後の変化という視点の中では、一つはデジタル、もう一つはSDGsではないかということをおっしゃいました。学校や教育の分野も含め、恵那市としての取り組みについてお話をさせてところでございます。

これ以外では、特に子育て支援のパッケージとして幾つかの施策をまとめ、継続した子育て支援のための事業についても述べさせていただきましたし、高齢者の支援といった子供や高齢者、いわゆる社会的弱者への支援というものについても述べさせていただきました。

また、やはりコロナを見据えて、その後の経済をいかに回していくかという面での経済支援なども発表させていただいたところでございます。特に、教育の分野ではデジタル、それからSDGsの話もしましたが、随分と進めてきてはおりますが、まだまだという中で、引き続き皆様方から様々なご意見をいただきながら取り組んでいきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。

教育長 こんにちは。市長さんにおかれましてはお忙しいところありがとうございます。

上矢作中学校を見せていただきました。今日の子供の目の輝きというのはやっぱり意欲の表れと捉えられ、本当にうれしく思いました。僅かな時間でしたけれども、幾つかのことが分かりました。

まず、生徒会の代表の子たちからは、このような交流はこれからも続けたいという声も聞こえてきましたし、終わりの頃には「授業」というような言葉が出てきました。まさに、最終的に目指すのはそこだと思います。もちろん、教科の授業の内容は決まっているので、内容を変えるというわけにはいきませんが、それを生徒たちが、主体となってやるという意味では良い事であると思います。

まだ慣れていないところも当然ありますが、その内慣れてくれば、教員の機器の使い方等この学校も一層スムーズになるのかと思います。授業では、こちらにいる教員は、パネルに映る側にいる生徒たちの表情を、どこまで理解できているかというのが見えると、快適になるのではないかと思います。

恐らく、この試みは周りの市では取り組んでいないところですので、教員側も生徒たちも、そして我々教育委員会もこれを機に、次のステージへと頑張りたいと思っておりますので、またご意見を賜りますようよろしくお願い致します。

2 議題

(1) ICTを活用した授業や今後のICT教育について

教育総務課長 学校教育課長のほうからICT教育のことについて、資料に基づき説明させていただきます。その後、意見交換会に入ります。

学校教育課長 資料「一人一台のタブレット端末を基にICT教育を推進」の資料に基づき説明。

教育総務課長 それでは意見やご質問はありませんか。

恵那市長 僕は見せていただきまして、子供たちの反応が随分とよかったということを感じました。可能性はあるし、もっともっとこれを推し進めてもいいかと思いました。

今の話に少し出ていましたが、例えば聞き取りにくいケースとか画面が見にくいとか、そういう技術的な課題でコミュニケーションが乱れるというのは、これは一番に解決すべき点だと思いますので、テクニカルな部分でもう少し改善をする必要があるのではないかというのが僕の正直な感想でございます。

それから、今、学校教育課長から説明していただきましたけれど、何のためにやるのかということがあります。個人的には自分の子供がいたり、孫がいたりする中で、子供たちには、わくわくする、ドキドキするとか、子供たちが目を輝かせるということとか、もしくは「なるほど」とうなずけることとか、今風で言うとエモーショナルということだと思います。ICTの技術を使うことで、ある程度実現できると思っています。

そういう意味では今回の遠隔授業については、先生にもご協力いただいて、ICTの新しい学びの形というのができたらいいというのが正直なところです。

まずは今年一年、こうして実現できたことに対し、感謝申し上げたいと思います。ありがとうございました。

教育総務課長 続きまして、教育委員の皆様、発言のほうをよろしく願います。

教育委員 本日見させていただいたが、問題点があると思いました。技術面もそうですけれども、授業の展開そのものも考えていかなければと。

例えば、授業の進行における生徒への接し方を担任はどうしているのか、そういうことが見えてこない。だから、ICT授業を日常的にやってほしいと思います。そのためには、1時間だけの単位でなしに一つの単元をICTを使って計画的に通してもらいたいと。それがリモート授業の日常化というものです。子供たちは授業にも慣れ、タブレットの使い方にも慣れていきますので、そこを考えたらと思いました。

もう1点は、生徒会の子供たちはその学校の代表の生徒ですので、言うこともしっかりしている。本当に実現できるかは分かりませんが、同じような目標をどの学校も立てておりました。それは「挨拶をしましょう」です。挨拶は確かに大事ですけれども、当たり前のことを当たり前のようにしていくという、その当たり前と言っているところが大切です。コミュニケーション能力を高めていくため

には当然、挨拶は大事です。挨拶をするときに当たり前という言葉で子供たちはうまくできるのか。「ありがとう」という気持ちを持って生徒会が使うように、先生がそれを教えていくことも大事だと思いました。

以上です。

教育総務課長 ありがとうございました。

教育委員 ICT教育に関しましては、予算をつけていただければ一番ありがたいわけでございます。

今日見させていただきました。人間、欲が出るものです。例えば、通信環境です。先ほどご挨拶の中にもありましたけれども、それぞれの学校によって音声あるいは照明等々で差が出てしまうと。聞きづらい、見づらいというような状況がありました。そういったことを均一な環境の中で、それぞれが交流できるといいと思いました。

それをハードな面としますと、今後はソフト面として先生方に授業のやり方の工夫として、遠隔で行う事の中で、目の前に自校の生徒がいる、モニターの中に他校の生徒がいるというような遠隔での授業のやり方というのを工夫していかないと、モニターの中の子供たちが、理解できていないのに進んでいかざるを得ないというようなことにもなりかねませんので、多面から予算をつけていただいて設備を整えていただく。そういった予算、ハードな面、先生方の授業の仕方等々のソフトな面を、これからどんどんと推し進めていっていただきたいと思います。

以上です。

教育総務課長 ありがとうございました。

教育委員 先日、孫の小学校への入学祝いのランドセルを買いに行ったときに「タブレットは1年生から使うと思いますので、もれなくタブレットカバーもつきます」というようにタブレットカバーをつけていただいて、「もう恵那市はとっくに1年生から使っていますよ」という話をしましたが、そう思うと恵那市は進んでいると痛感しました。今日のリモート生徒会と遠隔授業を見させていただき、学校によって、きれいな画像の学校もあれば、逆に画像がはっきり見えなかった学校や、音が途切れたりしていたことは、学校間で差が出てきているのかなと感じました。

遠隔授業については、1単元を通して、同じ単元を通してやれるとよいとおっしゃっていて、私も思っていました。しかし、以前授業を見たときは流れよく授業を進めていて、最初から最後までの見届けまではリモートじゃなくても、途中の導入のところまで一緒にやって、あとの細かい学び合いは各先生に渡すというやり方はすごくいいと思って見ていました。

教育総務課長 ありがとうございました。

教育委員 私たちの時代にはなかったものですから、1人用タブレット、あの大きいスクリーン。それだけで私はわくわくドキドキしましたが、恵那の子供たちはそれが当

たり前になったということで、次は、先のことを見越していろいろやらなければいけないのだらうと思いました。

先日、うちの息子がリモートで授業を受けました。先生も子供たちも、自然にこの画面上の息子を受け入れてくれて交流ができています。教室のみんなとその先の息子が。これはすごいと思いました。これまでの子供たち同士の交流という下地があるから、これだけすんなり受け入れられるし、子供も素直に授業に入っていけるというのがあるのかと思いますが。

今日の生徒会の交流会を見ていますと、まだ知識とか学校の情報をやり取りするだけであって、心の交流まではまだ難しいと思いますが、学校同士でゲームもICTを使ってやってみると、少しずつ心を開いて、互いにいろんな意見も出し合えるのではないかと思います。

また、これだけタブレット、ICTが普及していく中で、依存症とかそういった問題も出てくると思うので、依存症とかの扱い方に対する教育も同時に行えればと思います。また、スウェーデンでは授業前に体を動かすことで、授業に集中できるという話を聞きました。

以上です。

教育総務課長 ありがとうございました。

一通り意見が出されましたけれども、そのことだけではなくて皆様が出された意見の中で、また発言等ございましたらよろしく願いいたします。

一応、一つ私のほうからですけれども、樋田委員から単元による授業とか西尾委員のほうから授業のやり方など、そういったことで学校側として、これからどのように進めていくのか少し研究所のほうからお話ししていただきたいと思っておりますので、よろしく願いします。

教育研究所長

今日こうやって遠隔のスタジオを初めて使って、今日で授業を進めた先生は2回目でございます。これまで教育等でつなげた授業を10回とか、あと各教科2回目まではやっているところでございます。

それで、その中でより効果的な使い方というところで、つきたい力をつけるときに単元の例えば始めと終わりの使い方が、数学でいうと1単元のグループと半分、比例と反比例でしたが、比例の部分は串原中学校と上矢作中学校を8時間全部つないで挑戦してやっています。

そうした中で今日、音声であったりとか画像であったりだとか、まだ問題点はありましたが、これから使っていく中で解決しながら、どこの場面でどう使うか、そこは教育のプロとしてきっちりと見極め、研究所もサポートしていきたいと考えております。

教育総務課長 ありがとうございました。

その他どうでしょうか。

教育委員 子供たちの意見の中で、給食は一緒にリモートで食べようという意見がありま

した。大人の世界でもリモートの会議もありますし、これは難しいことではないと思います。給食の時間を一緒にするだけでリモートでのランチというようにできるところから始めることで、大きな効果が期待できるのかと思いました。

教育総務課長 ありがとうございました。

副教育長 給食を一緒にとか、あと例えば休み時間を一緒にしゃべってみるとか、本当に小さなところから慣れていくことが大切です。今日の様子を見ていてもやっぱり相手の名前がまだ分かっていないところがあり、その段階かということを思いました。授業もそうですし、給食や休み時間もそうですけれど、今まで子供たちがタブレットに慣れていったように、遠隔とかリモートにもどんどん慣れていくといった、このプロセスが大事だろうということだと思います。

先ほど市長さんが、わくわくドキドキというエモーションを求めたいということをおっしゃられて、私も同じように思っているところがあります。子供たちのわくわくドキドキはインフォメーション・ギャップというか、そういう子供たちが今まで自分の思っていたことや考えていたことと違うものというか、違うことに触れたとき、また思いがけないことに触れたときにそういった感情が得られるわけで、そうした経験をつなげていくことや、日常の授業で、とにかくやってみるといったところを進めていきたいと思っています。

教育総務課長 ありがとうございました。

そのほか皆様、どうでしょうか。

教育委員 私たちより子供たちのほうが本当に慣れていくのは早いと思うので、使っていくうちに、ああしたほうがいい、こうしたほうがいいということは子供たちの中からどんどん出てくると思います。ぜひ、その声を拾っていただきたいと思いますので、よろしく願います

以上です。

教育総務課長 ありがとうございました。

恵那市長 皆さん、前向きな意見を本当にたくさん頂きまして、とても僕自身も勉強になるというか、参考にさせていただきたいなあと今聞かせていただいたところでは。

僕は教育の先生でもないですし、教育という意味では素人の話ですが、人間ですから学び合うとか、よい意味で競い合うとか、それから、コミュニケーションをしてみるとかいうことが、やはり自分たちにとって非常に有益になるのではないかと考えています。

教育の現場とはちょっと違いますが、恵那市では今13の地域があります。13の地域は互いに、競争する仕組みを取ってしまっていて、例えば、ふるさと納税を競争してもらおうとか、移住・定住の人数を少し競争してもらおうとか、それぞれでやっています。

そうすると、みんなゲーム感覚で、同じようなことを学校でもできるかもしれないと思っています。特に、恵南の中学の中に、先ほど子供たちの中でも西と東に

分けられているという発言がありましたけれども、そういう競い合える目標を持って、例えば隣の中学校には負けたくないとか言いながら、少し勉強を頑張ってみようぜというような雰囲気をつくるのが非常に有益なんじゃないかなということを思っております。

それから、タブレットを使って子供たちがやりたいことを決めていく中で自分たちのルールを決めることは大事だし、コミュニケーションはICTを活用するツールの中で使うことで、先ほど委員のお話のように24時間いつでも会いたいときに会える、こういう関係もつくれるものです。そういうところにより刺激、もしくはよい環境を与えられるのではないかと、こんなことを今感じながら聞かせていただきました。ありがとうございました。

教育総務課長 ありがとうございました。

教育委員 今日も生徒会を一生懸命やっていましたね。恵那市全体で何か束になっていくことを計画していくと、もっと子供たち自身も変わっていくような気がします。今後リモート使った事も多くなるので大変ですがよろしくお願ひしたいです。教育委員会リモート会議をやりました。僕もこの画面でしゃべったりしましたけれども、楽しかったです。恵那市ではタブレットの授業が進んでいく中で、本当に子供がそのわくわく感を持って、これから使っていける、慣れていく、そんなふうに三度の食事をするような感じのタブレットになるといいかと思ひました。

ただ、他の委員が言われたように、パソコンで依存とかになる可能性もあることを聞くので、そういうことはケアしていかないとと思ひます。今後、ハード面とソフト面をICT教育推進本部で話題にしていただき、進めていってほしいと思ひました。

以上です。

教育総務課長 ありがとうございました。

教育委員 今は携帯電話が多くて固定電話がどんどん少なくなっている。ましてや、公衆電話も減っているという話も聞きます。そもそも、電話が発明されたいきさつは、用事があるからちょっと来てというのが、そもそも電話の始まりだったそうです。今は、ICTだ、ネットだ、Zoomだということで、コンピューターを使って人付き合いが完結する状況かなと思ひています。

ところが、先ほど市長さんがネット、リモート会議だけではなくて、時々会おうよというのが大切だというふうにおっしゃいました。まさしく、そのとおりだと思ひます。ネットにしたって本当の意味の空気感、相手と一緒に空気の中にいるその空気感というものは、いかにもこのモニターの中からでは感じられない。やはり会って話をしようよということがとても大切なことだと思ひました。

それと技術がどんどん進むことによって、いろんなことができるようになったわけです。しかし、人と人が一緒に、先ほど市長さんも学び合う、競い合うというような表現をされましたけれども、その「合う」というのはやっぱり一緒に空

気の中でのことが何より大事というふうに思います。そういった機会を、道具は道具として大いに活用していけばよいわけです。そういった会う機会というものもをどんどん増やしていくようなことになればいいなとそんなことを思いました。

以上です。

教育総務課長 ありがとうございます。他に意見がありましたらお願いします。

教育委員 ICTは、ここに書いてある消しゴムとか定規とかのように必要なツールであると思います。以前、恵那市全体で合唱交流をやっていたような、そういう刺激し合いながら、学び合いながら、よい意味で競い合えることはやっぱり大事だと思えます。ICTに依存をしないように、気をつけ、そういう学び合いのツールとしてどんどん進めてほしいと感じました。

教育総務課長 ありがとうございます。他はどうでしょうか。

教育委員 お願いします。タブレットについてですが、寿命が来ると思えます。市として、今後の扱いについてどうお考えでしょうか。

恵那市長 今回は国の予算と、市も少し負担はありましたが進めることができました。なるべく市の方で負担できればとは考えていますが、こればかりはいつまで続くかわかりませんので、また皆様方に相談しながら進めていければと思います。

教育総務課長 ありがとうございます。委員、よろしいですか。

教育委員 はい。ありがとうございます。

教育総務課長 その他どうでしょうか。

ほかの意見でもよろしいですので、ご意見・ご質問などがございましたら、せっかくの機会ですので何かございませんでしょうか。

教育長からよろしいでしょうか。お願いします。

教育長 一つ私が思ったことは、当たり前のように教員と子供たちはタブレット使いながら授業を受けている。ここで学力を高めるためには今までと同じ授業パターンの中ではよい成績は出ないと思いました。

タブレットを使った新しい授業の形を教員自身も考えながら、考慮しながら、さらに教員としての力をつけていくことも大変必要かと感じました。

教育総務課長 ありがとうございます。

そのほかご意見はありませんでしょうか。よろしいですか。

(「なし」と呼ぶ者あり)

教育総務課長 それでは、本日この遠隔授業の見学を通し、総合教育会議という場において、皆さんに多く発言をいただきました。子供たちの今後の教育のために、教育委員会、また市教部局とともに考えていければと思っていますので、よろしく願いいたします。

それでは、最後に、市長さんよりお言葉をいただきます。

恵那市長 本日は、大変お忙しい中お時間を取っていただきまして、本当にありがとうございました。

子供たちが授業の中でやりたいことをたくさん述べてくれました。それを一つずつ実現できればいいと思いましたし、何とか形にしてもらいたいというふうに思っております。

いずれにいたしましても、こうして皆さんからいろんな意見を伺いながら、恐らく方向というのは、さらに前に進んでいくことだろうと思いますので、それを少しでも、一歩でも二歩でも前に進んでいけるように、これから恵那市としても取り組んでいけるように私どもも一生懸命に取り組んでまいります。

ぜひ皆様方のご意見を引き続き頂戴いたしまして、よりよい恵那市づくりに励んでまいりたいと思います。ありがとうございました。

教育総務課長 ありがとうございました。

これで、本日の総合教育会議を終了いたします。

閉 会（午後3時30分）